

〔資 料〕

保護者が認知する子どもの個性と習い事との関連

木村あやの・犬塚 亮・浦 信将・渡辺 剛・木村 敦

The Association between Lessons and
Psychological Factors of Children as Assessed by Their Parents

Ayano KIMURA, Ryo INUZUKA, Nobumasa URA,
Tsuyoshi WATANABE and Atsushi KIMURA

The variety of extracurricular lessons available to children compared to what was available to those children's parents has increased. Parents need more information to help them select the lessons for their children that will be most effective in stimulating the development of their children. The present study aims to obtain fundamental data to be used in the creation of an information tool that will help parents select the best lessons for their children. Specifically, an online questionnaire was distributed to parents whose children have taken lessons in order to understand the association between psychological factors in their children and the types of lessons that their children have been taking.

A total of 1,217 responses were obtained. Of them, 772 respondents (662 parents of elementary school children and 110 parents of preschool children) who had been taking a lesson for at least 13 months were included in the analyses. Swimming was the most common lesson taken by elementary school children, followed by piano. Regarding psychological factors, the level of multiple intelligences, particularly interpersonal intelligence, was rated higher by parents whose children were taking piano as compared with those whose children were participating in swimming.

Key words: extracurricular lessons (習い事), parenting (子育て), big five (性格5因子), multiple intelligences (多重知能), stimulus screening (刺激遮蔽能力)

1. はじめに

子どもの習い事の低年齢化・多様化が進んでいる。保護者が子どもの習い事を選択する際、子ども本人の意思を尊重する場合も多い一方で、「能力を伸ばすため」や「身体を丈夫にするため」など保護者の意思を反映させるケースもある(別府・阿久根, 2018)。保護者が子どもの習い事を決める上で、子どもの性格、将来像などを見据えて「どのジャンルの習い事をさせるか」、そして「どの教室に通わせたらよいか」を考えることは大きな課題となる(大

石・米村, 2019)。保護者は習い事による知識・技術修得の側面だけでなく、子どもが自信や達成感を高めたり、交流を広げる場としての効用も感じているとされる(中山・栗原・森, 2005)。その意味で必ずしも習わせたいことが決まっているわけではなく、子どもの将来に役立つような何かを習わせたいといった動機で習い事を探す保護者も多いであろう。しかし、自分の子どもに向いている習い事は何か、個別か集団かなど、どのような実施形態・教室環境が適しているかについては保護者にとって未知な部分もあると推測される。また、保護者の幼少期と比べ

て習い事の種類も多様化していることから、選択肢が多いことに加え、内容や効果をイメージしにくい習い事もあると考えられる。

そのため、習い事に関する情報の支援として、子どもの習い事を選択する際に保護者をサポートし、かつ実際に習い事をする子ども自身の成長に資するような情報提供が求められる。子どもの個性から習い事のマッチングを行うシステムとして、たとえば大石・米村(2019)は、親が評価した子どもの性格、子どもの将来像、習い事をする目的などから、習い事を推薦するシステムのプロトタイプを開発している。一方で、このシステム開発に際して行われた調査では子どもの性格として「子どもに将来どのような性格になってほしいか」といった将来性格像が用いられており、子どもの現在の個性に焦点を当てた検討はまだ少ない。保護者が日頃子どもと接する中で感じる子どもの個性に関する情報は、多種多様な習い事から選択する上で重要な指標となり得る。

そこで本研究は、子どもの現在の個性を考慮した習い事レコメンドシステムの構築を目標とし、その定量的なアルゴリズム構築のための基礎調査を実施することとした。子どもの個性を捉える指標として、性格、多重知能、刺激遮蔽能力(選択的注意機能)の3種類を測り、どのような個性の子どもがどのような習い事を継続しやすいかを明らかにするための調査を実施した。本稿はその第一報として、調査の概略、基礎統計量、ならびに習い事のカテゴリと子どもの個性(性格、多重知能、刺激遮蔽能力)の全体的な関係性に焦点を当てて報告する。

2. 調査方法

2.1. 調査参加者

調査は、2018年12月～2019年4月の間にオンラインで実施した。株式会社スクルーが運営するこどもの習い事・アクティビティ検索・申し込みサイト「skuroo」を閲覧する、小学生までの子どもに習い事をさせている成人保護者を対象として参加者を募集した。調査サイトは株式会社スクルーが作成し、「skuroo」のトップページからのリンクでアクセスできるようになっていた。所要時間は子ども1名分

表1 調査参加者の属性

属性	回答数
年齢	
10代	0 (0.0%)
20代	17 (2.2%)
30代	279 (36.1%)
40代	455 (58.9%)
50代	21 (2.7%)
60代	0 (0.0%)
性別	
女性	710 (92.0%)
男性	62 (8.0%)

の記入につき30分程度を見込んでおり、調査参加の謝礼として回答者の中から毎月抽選で30名にamazonギフトクーポン500円分を進呈することを募集時に周知した。なお、調査は子ども1名・習い事1件について回答する内容となっているため、習い事をさせている子どもが複数いる場合は、子ども1名分ずつ回答してもらうよう依頼した。また、子ども1名が複数の習い事をしている場合にも、それぞれの習い事について回答するよう依頼した。その結果、682名の調査参加者から子ども980名分、計1,217件の習い事経験について回答を得た。本稿の分析対象とした772件の調査参加者の属性情報を表1に示す。なお、本研究は昭和女子大学倫理審査委員会の承認を得た(18-24, 18-38)。

2.2. 調査項目

調査項目は以下の内容から構成された。設問数は子どもが小学生の場合は計54項目、未就学児の場合は計50項目であった。

- (1) 参加者属性: 参加者の年齢、性別
- (2) 子どもと習い事に関する設問(13項目): 子どもの年齢、性別、就学状況、現在取り組んでいる習い事、開始年齢、継続期間、レッスンの形態(個別・集団)、レッスン1回あたりの所要時間、頻度(月あたりの回数)、通学時間、継続理由、習い事の印象(形容詞対8項目)、子どもが将来なりたいと思っている職業名(本稿では分析から除外)

- (3) 子どもの性格特性: 日本語版 Ten Item Personality Inventory (TIPI-J) (小塩・阿部・カトローニ, 2012) を用いた (付録1)。TIPI-J は, 性格を5つの枠組みで捉える Big Five の5つの因子「外向性」「協調性」「勤勉性」「情緒不安定性」「開放性」を各2項目で測定する尺度である。
- (4) 子どもの多重知能: Gardner (1983), 野崎・子安 (2016), 野添 (2011) を参考に質問項目を選定した。Gardner (1983) は, 「人を理解しその行動を調整する能力」である社会的知能を重視し, 人間の知能を「言語的知能」, 「論理数学的知能」, 「空間的知能」, 「身体運動的知能」, 「音楽的知能」, 「個人内知能」, 「対人的知能」の7つに分類する多重知能理論を提唱した。多重知能の分類は, 保護者が子どもに習い事をさせることで伸ばしたい能力と関連することが予想され, この7つの知能に, 野添 (2011) の「熱中性」を追加した8つの下位分類からなる質問項目とした。
- (5) 子どもの刺激遮蔽能力: Mehrabian (1977), および大谷 (2011) を参考に刺激遮蔽能力尺度短縮版を作成した。刺激遮蔽能力とは, 外界からの刺激を気にせず作業に集中できる選択的注意機能の度合いを意味し, 将来的に子どもが通いやすい習い事的环境調整に役立つ可能性があり本研究に採用した。

2.3. データ解析

本研究は, どのような個性の子どもがどのような習い事を継続しているかについて明らかにすることが目的であるため, 同一の習い事を1年を超えて継続している事例, すなわち継続月数が13か月以上の事例を分析対象とした。その結果, 全1,217件のうち, 小学生662件, うち男子283件 (平均年齢8.3歳, $SD=1.67$), 女子379件 (平均年齢8.4歳, $SD=1.70$), および未就学児110件, うち男子58件 (平均年齢4.4歳, $SD=1.20$), 女子52件 (平均年齢4.7歳, $SD=1.13$) の計772件を分析対象とした。

習い事の名称については, 「ピアノ」, 「スイミング」など20の選択肢と, 「その他」として得られた

自由記述回答を整理し, 計34種類とした (表2)。また, これらの習い事のカテゴリとして, 大きく「スポーツ系」, 「学習系」, 「アート系」の3つのカテゴリに分類した。

各習い事を13か月以上継続している子どもについての回答を集計し, 子どもと習い事に関する各項目についての代表値 (間隔・比例尺度については平均値, 名義尺度については最頻値) を算出した。

また, 子どもの性格特性, 多重知能, 刺激遮蔽能力については, 習い事カテゴリによる大まかな傾向を確認するため, 各カテゴリで最も人数が多かった「スイミング」, 「英会話」, 「ピアノ」を取り上げて, 3群間で比較した。比較には一元配置分散分析を用い, 有意な場合は Bonferroni 法による多重比較を行った。なお, データ集計と分析には Microsoft Excel および SPSS ver. 25 を用いた。

3. 結果

3.1. 習い事の種類ごとの基礎統計量

34種の習い事について, 子どもと習い事に関する各項目の代表値を表2に, 習い事に対する印象の平均評定値を表3に示す。最も人数の多い習い事はスポーツ系ではスイミング ($N=175$), 学習系では英会話 ($N=95$), アート系ではピアノ ($N=134$) であった。

そこで, スイミング, 英会話, ピアノの間で習い事の影響を比較したところ, 「静かな」と「保護者サポート必要」については, それぞれピアノ > 英会話 > スイミングの順で評定値に差がみられた (順に $F(2,388)=30.2, p<.01, F(2,384)=30.5, p<.01$)。また, 「寛容な」と「家で練習が必要」については, 学習系とアート系はスポーツ系よりも評定値が高かった (順に $F(2,386)=6.1, p<.01; F(2,385)=78.3, p<.01$)。

3.2. 習い事の種類と子どもの個性 (性格, 多重知能, 刺激遮蔽能力) との関係

各習い事カテゴリで最も人数が多かったスイミング, 英会話, ピアノについて, 子どもの性格特性, 多重知能, 刺激遮蔽能力の平均値を算出した (表4)。

表2 各習い事についての基礎統計量¹⁾

カテゴリ・名称	人数 (名)	開始年齢 (歳)	継続月数 (か月)	形態	所要時間 (分)	頻度/月 (回)	継続 理由 ²⁾³⁾
スポーツ系							
スイミング	175	4.0 (1.9)	42.5 (21.5)	2.0 (0.2)	60.2 (10.9)	4.1	5
体操・体育	45	4.6 (1.9)	36.2 (16.2)	2.0 (0.2)	60.4 (30.0)	4.4	5
サッカー	40	5.3 (1.4)	37.1 (16.5)	2.0 (0.0)	105.0 (62.0)	6.9	3
武道	27	5.7 (1.2)	29.7 (13.8)	2.0 (0.0)	89.2 (32.5)	6.7	5
ストリートダンス	14	5.1 (1.9)	44.7 (19.6)	2.0 (0.0)	62.1 (7.7)	3.9	3
チアダンス	11	4.8 (1.1)	45.4 (18.5)	2.0 (0.0)	78.6 (41.2)	3.6	3
野球	11	6.7 (1.5)	33.8 (15.0)	2.0 (0.0)	310.0 (153.8)	9.1	3
リトミック	10	1.7 (1.1)	35.9 (16.3)	2.0 (0.0)	51.5 (12.2)	3.2	3
室内球技	10	6.2 (1.0)	49.6 (17.3)	1.9 (0.3)	125.0 (26.9)	10.0	1
テニス	6	5.7 (1.2)	28.3 (11.7)	2.0 (0.0)	144.2 (20.4)	3.8	5
合気道	6	6.2 (0.7)	36.7 (22.6)	2.0 (0.0)	75.0 (12.2)	5.3	3
伝統芸能	6	7.0 (2.3)	27.2 (9.8)	2.0 (0.0)	85.0 (26.9)	3.8	3
新体操	4	3.5 (0.5)	35.3 (10.0)	2.0 (0.0)	67.5 (13.0)	5.0	3
格闘技	3	4.3 (0.5)	29.0 (9.9)	1.7 (0.5)	66.7 (17.0)	4.0	5
ゴルフ	3	7.7 (0.9)	22.7 (6.3)	1.7 (0.5)	56.7 (4.7)	4.0	1
スケート	2	6.5 (0.9)	41.0 (19.0)	1.5 (0.5)	60.0 (30.0)	3.5	
自然体験	2	7.5 (1.5)	32.5 (3.5)	2.0 (0.0)	105.0 (45.0)	3.5	
陸上	1	9.0 (0.0)	17.0 (0.0)	2.0 (0.0)	90.0 (0.0)	14.0	
ラグビー・フットボール	1	6.0 (0.0)	48.0 (0.0)	2.0 (0.0)	180.0 (0.0)	4.0	
ローラースポーツ	1	7.0 (0.0)	18.0 (0.0)	2.0 (0.0)	120.0 (0.0)	2.0	
学習系							
英会話	95	3.9 (2.0)	42.4 (23.8)	1.8 (0.4)	64.4 (37.2)	5.2	1
学習塾	37	6.3 (1.9)	32.7 (13.4)	1.7 (0.4)	89.5 (61.0)	8.5	2
習字	27	6.4 (1.7)	31.9 (18.8)	1.9 (0.3)	55.6 (21.8)	3.9	1
幼児教室・プリスクール	23	3.2 (1.7)	33.0 (21.9)	1.9 (0.3)	89.3 (66.0)	4.1	3
そろばん	16	6.3 (1.2)	28.6 (12.6)	2.0 (0.0)	54.5 (12.5)	8.0	1
STEM	8	5.8 (1.7)	32.0 (16.3)	2.0 (0.0)	69.0 (33.9)	2.9	3
通信教育	3	3.7 (2.1)	41.3 (18.9)	1.0 (0.0)	40.0 (14.1)	11.0	3
ボードゲーム	1	5.0 (0.0)	48.0 (0.0)	2.0 (0.0)	120.0 (0.0)	4.0	
アート系							
ピアノ	134	4.6 (1.7)	41.7 (20.7)	1.2 (0.4)	39.0 (13.7)	3.8	3
アート・造形	16	5.5 (1.9)	33.4 (19.1)	1.9 (0.3)	88.1 (23.8)	2.9	3
バレエ	23	4.0 (1.2)	52.4 (27.3)	2.0 (0.0)	68.9 (15.0)	5.5	3
バイオリン	7	4.0 (0.8)	49.7 (21.8)	1.0 (0.0)	40.0 (14.1)	4.0	6
演劇	2	5.5 (2.5)	27.0 (7.0)	2.0 (0.0)	60.0 (0.0)	4.0	
料理	2	5.5 (1.5)	29.0 (5.0)	2.0 (0.0)	120.0 (30.0)	1.5	

1) 開始年齢，継続月数，1回あたりの所要時間，頻度/月は平均値 (SD) を，形態については個別を1，集団を2とした場合の平均値 (SD) を，継続理由は最頻値の回答を記載。

2) 3名以上のデータがある場合にその最頻値となる選択肢の回答番号を記載。

3) 継続理由の選択肢は，1: 技術や能力を向上させるため，2: 将来の受験に備えた能力開発のため，3: 子どもがレッスン内容を楽しんでいるため，4: 子どもが先生や友達との関係を楽しんでいるため，5: 体力づくりなどの身体的な発達のため，6: 集中力や協調性などの精神的な発達のため，であった。

表3 各習い事の印象の平均評定値 (SD)¹⁾

カテゴリ・名称	簡単な	緊張する	じっくりやる	すぐできる	静かな	寛容な	家で練習する	保護者サポート必要
スポーツ系								
スイミング	3.6 (0.6)	2.8 (0.7)	2.4 (0.7)	3.6 (0.7)	1.8 (0.7)	2.8 (0.7)	2.3 (0.6)	1.9 (0.9)
体操・体育	3.7 (0.7)	2.8 (0.8)	2.3 (0.8)	3.8 (0.7)	1.6 (0.6)	2.9 (0.8)	2.8 (1.0)	1.9 (1.0)
サッカー	3.6 (0.8)	3.1 (0.8)	2.1 (0.7)	3.8 (0.8)	1.7 (0.6)	2.8 (0.7)	3.1 (0.9)	2.6 (1.0)
武道	3.3 (0.6)	3.5 (0.9)	2.6 (0.7)	3.3 (0.7)	2.0 (0.7)	2.3 (0.8)	2.8 (0.9)	2.6 (1.0)
ストリートダンス	3.4 (0.6)	3.1 (0.7)	2.6 (0.6)	3.8 (0.7)	1.6 (0.5)	3.0 (0.5)	4.1 (0.7)	2.0 (0.8)
チアダンス	3.4 (0.6)	3.4 (0.6)	2.5 (0.7)	3.8 (0.8)	2.1 (0.8)	2.4 (0.5)	3.5 (1.1)	2.8 (0.6)
野球	3.1 (2.9)	3.6 (2.4)	2.8 (2.8)	3.3 (2.7)	1.8 (1.8)	2.3 (2.3)	3.6 (2.4)	3.6 (3.6)
リトミック	4.2 (0.6)	2.3 (0.6)	2.1 (0.8)	4.0 (0.5)	1.9 (0.6)	3.0 (0.7)	2.5 (0.5)	1.6 (0.5)
室内球技	3.5 (0.7)	3.3 (0.9)	2.3 (0.9)	3.9 (0.8)	1.4 (0.7)	2.5 (0.5)	3.8 (0.9)	2.8 (0.7)
テニス	3.6 (0.5)	2.4 (0.5)	2.6 (0.8)	3.2 (0.7)	1.8 (0.4)	3.4 (0.5)	3.0 (0.6)	2.0 (0.0)
合気道	4.0 (0.6)	3.5 (0.5)	2.2 (0.7)	3.8 (0.7)	2.0 (0.0)	2.3 (0.5)	2.2 (0.4)	1.7 (0.5)
伝統芸能	3.2 (0.4)	3.0 (0.6)	2.6 (0.5)	3.6 (0.5)	1.4 (0.5)	4.0 (0.0)	4.2 (0.7)	2.8 (0.7)
新体操	3.8 (0.8)	3.3 (1.3)	2.3 (1.1)	3.5 (0.9)	1.5 (0.5)	3.3 (0.8)	3.0 (0.8)	2.3 (0.5)
格闘技	3.3 (0.5)	3.7 (0.5)	2.5 (0.5)	3.5 (0.5)	2.0 (1.0)	3.5 (0.5)	2.5 (0.5)	3.5 (0.5)
ゴルフ	4.0 (0.0)	2.3 (0.5)	2.0 (0.8)	4.0 (0.0)	2.7 (0.9)	3.0 (0.8)	2.7 (0.9)	3.0 (1.4)
スケート	3.5 (0.5)	2.5 (0.5)	2.5 (0.5)	3.5 (0.5)	2.0 (0.0)	3.0 (0.0)	2.0 (0.0)	2.5 (0.5)
自然体験	3.5 (0.5)	3.0 (1.0)	2.5 (0.5)	3.0 (0.0)	1.5 (0.5)	3.5 (0.5)	3.0 (1.0)	2.5 (0.5)
陸上	2.0 (0.0)	4.0 (0.0)	3.0 (0.0)	3.0 (0.0)	2.0 (0.0)	2.0 (0.0)	3.0 (0.0)	3.0 (0.0)
ラグビー・フットボール	4.0 (0.0)	2.0 (0.0)	2.0 (0.0)	4.0 (0.0)	2.0 (0.0)	4.0 (0.0)	4.0 (0.0)	1.0 (0.0)
ローラースポーツ	4.0 (0.0)	2.0 (0.0)	3.0 (0.0)	3.0 (0.0)	2.0 (0.0)	3.0 (0.0)	2.0 (0.0)	4.0 (0.0)
スポーツ系平均	3.6 (0.7)	2.9 (0.8)	2.4 (0.8)	3.6 (0.7)	1.8 (0.7)	2.8 (0.8)	2.7 (0.9)	2.2 (1.0)
学習系								
英会話	3.6 (0.8)	2.9 (0.8)	2.2 (0.7)	3.7 (0.7)	2.0 (0.8)	3.1 (0.7)	3.6 (0.8)	2.4 (1.0)
学習塾	3.2 (0.7)	3.0 (0.8)	2.8 (0.7)	3.6 (0.7)	2.9 (0.7)	2.7 (0.6)	4.5 (0.7)	2.6 (0.9)
習字	3.6 (0.7)	2.9 (0.6)	2.3 (0.8)	3.7 (0.8)	3.0 (0.9)	3.0 (0.6)	2.5 (0.8)	1.7 (0.8)
幼児教室・プリスクール	3.7 (0.7)	2.9 (0.8)	2.4 (0.8)	3.9 (0.5)	2.3 (0.8)	2.7 (0.8)	4.0 (0.8)	2.6 (0.9)
そろばん	3.1 (0.4)	3.3 (0.9)	2.6 (0.8)	3.5 (0.7)	2.9 (0.7)	2.4 (0.7)	3.1 (1.0)	1.9 (0.9)
STEM	3.3 (0.4)	3.1 (0.6)	2.6 (0.5)	3.6 (0.5)	2.0 (0.7)	3.6 (0.7)	2.9 (1.1)	1.9 (0.6)
通信教育	4.3 (0.5)	2.3 (0.5)	1.3 (0.5)	4.3 (0.5)	3.0 (1.4)	3.7 (0.5)	4.7 (0.5)	3.3 (0.5)
ボードゲーム	4.0 (0.0)	2.0 (0.0)	3.0 (0.0)	4.0 (0.0)	3.0 (0.0)	4.0 (0.0)	3.0 (0.0)	1.0 (0.0)
学習系平均	3.5 (0.7)	2.9 (0.8)	2.4 (0.8)	3.7 (0.7)	2.4 (0.9)	2.9 (0.7)	3.6 (1.0)	2.3 (1.0)
アート系								
ピアノ	3.6 (0.7)	2.9 (0.8)	2.4 (0.7)	3.5 (0.8)	2.7 (0.7)	3.1 (0.9)	3.6 (0.9)	2.7 (1.0)
アート・造形	3.7 (0.6)	2.6 (0.7)	2.7 (1.0)	3.9 (0.7)	2.6 (0.9)	3.5 (0.7)	3.2 (1.2)	1.8 (0.8)
バレエ	3.6 (0.6)	3.0 (0.8)	2.3 (1.0)	3.7 (0.8)	2.1 (0.8)	2.8 (0.9)	3.2 (1.1)	2.4 (1.0)
バイオリン	3.2 (0.9)	3.2 (0.7)	2.7 (1.1)	3.0 (0.6)	3.7 (0.5)	3.0 (1.2)	3.0 (0.6)	2.5 (1.3)
演劇	3.0 (0.0)	4.0 (0.0)	3.0 (0.0)	4.0 (0.0)	3.0 (0.0)	2.0 (0.0)	4.0 (0.0)	3.0 (0.0)
料理	3.5 (0.5)	2.5 (0.5)	2.0 (1.0)	4.5 (0.5)	2.0 (0.0)	3.5 (0.5)	3.0 (1.0)	2.5 (0.5)
アート系平均	3.6 (0.7)	2.9 (0.8)	2.4 (0.8)	3.6 (0.8)	2.7 (0.8)	3.1 (0.9)	3.5 (1.0)	2.6 (1.0)
<i>M</i> ²⁾	3.5	2.9	2.4	3.7	2.2	3.0	3.2	2.4
<i>SD</i> ²⁾	0.4	0.5	0.3	0.4	0.6	0.5	0.7	0.7

1) 項目評定値:「簡単な (5)~難しい (1)」,「緊張する (5)~緊張しない (1)」,「じっくりやる (5)~すらすらやる (1)」,「すぐできる (5)~なかなかできない (1)」,「静かな (5)~賑やかな (1)」,「寛容な (5)~厳しい (1)」,「家で練習する (5)~家で練習しない (1)」,「保護者サポート必要 (5)~保護者サポート不要 (1)」。

2) 各習い事の平均評定値 (*M*) と標準偏差 (*SD*)。SD が大きければ習い事の種類によって印象が異なりやすいこととなる。

表4 習い事の種類（スイミング, 英会話, ピアノ）と子どもの性格・認知特性との関係

	スイミング (N=156)	英会話 (N=89)	ピアノ (N=115)	F	p
性格特性					
外向性	3.6 (1.0)	3.6 (1.0)	3.5 (1.0)	0.83	n.s.
協調性	3.8 (0.8)	3.9 (0.8)	4.0 (0.8)	2.99	<.10
勤勉性	2.8 (0.8)	2.9 (0.9)	2.9 (0.9)	0.47	n.s.
情緒不安定性	2.9 (0.8)	2.8 (0.8)	2.8 (0.8)	0.20	n.s.
開放性	3.4 (0.7)	3.3 (0.8)	3.3 (0.7)	1.14	n.s.
多重知能 (小学生)					
言語的知能	6.7 (2.0)	6.6 (1.8)	6.9 (1.9)	0.58	n.s.
論理数学的知能	5.9 (1.9)	6.1 (2.0)	5.9 (1.8)	0.25	n.s.
空間的知能	6.1 (1.7)	6.0 (1.8)	6.3 (1.5)	0.49	n.s.
身体運動的知能	8.0 (1.6)	8.0 (1.8)	8.1 (1.6)	0.14	n.s.
音楽的知能	7.5 (1.8)	7.9 (1.9)	8.0 (1.7)	1.69	n.s.
内省的知能	6.5 (1.8)	6.9 (1.9)	6.8 (1.9)	1.12	n.s.
対人的知能	6.7 (1.7)	6.9 (1.9)	7.3 (1.6)	3.09	<.05
熱中性	7.1 (2.0)	7.1 (2.0)	6.9 (1.8)	0.13	n.s.
刺激遮蔽能力					
動揺しやすさ (R)	5.1 (1.8)	5.3 (1.7)	5.7 (1.9)	3.73	<.05
同時多量刺激による動揺	6.1 (1.7)	6.0 (1.5)	5.9 (1.8)	0.27	n.s.
嗅覚刺激による動揺	5.6 (2.3)	5.9 (2.0)	5.5 (2.1)	1.01	n.s.
触覚刺激による動揺	6.4 (2.4)	5.9 (2.1)	5.8 (2.2)	2.42	n.s.
聴覚刺激による動揺	5.9 (1.8)	6.3 (1.9)	5.7 (1.8)	2.42	n.s.
気持ちの動揺の持続	5.0 (1.8)	4.9 (1.7)	5.2 (1.8)	0.65	n.s.
興奮による身体反応	3.9 (1.9)	4.2 (1.8)	4.0 (1.7)	0.69	n.s.
視覚刺激による動揺	5.6 (2.2)	5.7 (2.0)	5.5 (2.0)	0.36	n.s.
合計	42.9 (8.5)	43.5 (6.5)	42.7 (7.9)	0.26	n.s.

R は逆転項目

すべての質問項目への回答に不備のない調査参加者を分析対象とした。

これら3種の習い事間で比較したところ、性格特性については「協調性」に有意な傾向がみられ ($F(2,358)=2.99, p<.10$), ピアノはスイミングよりも評定値が高い傾向であった。多重知能については「対人的知能」に有意差がみられ ($F(2,279)=3.09, p<.05$), ピアノはスイミングよりも評定値が高かった。刺激遮蔽能力については「動揺しやすさ」に差がみられ ($F(2,358)=3.73, p<.05$), ピアノはスイミングよりも評定値が高く、動揺しにくいことが明らかとなった。

4. 考 察

本研究は、子どもの個性を考慮した習い事レコメンドシステムの開発を目標とし、その第一段階として子どもが習い事をしている親を対象として習い事や子どもの性格、多重知能、刺激遮蔽能力に関する調査を実施したものである。オンライン調査で収集

した回答 1,217 件のうち、同じ習い事を 13 か月以上継続している 772 件 (63.4%) を分析対象とした。

34 種類 772 件の習い事のうち、最も多かったのは「スイミング」(175 名, 22.7%) であり、続いて「ピアノ」(134 名, 17.4%), 「英会話」(95 名, 12.3%) であった。34 種の習い事をカテゴリ分けする上でスポーツ系, アート系, 学習系の 3 カテゴリに分類したが、これらの習い事は各カテゴリでそれぞれ最も人数の多い代表的な習い事といえよう。スイミング, 英会話, ピアノが子どもの「三大習い事」となる傾向は、近年実施された子どもの習い事に関する他の民間調査 (アクトインディ株式会社, 2020; 株式会社バンダイ, 2019) と一致するもので、本調査のサンプルは一般的な傾向を反映しているといえる。また、習い事のうち人数が少なかったもの (772 件の 1% 未満) としては、スポーツ系ではテニス, 合気道, 伝統芸能, 新体操, 格闘技, ゴルフ, スケー

ト、自然体験、陸上、ラグビー・フットボール、ローラースポーツ、学習系では通信教育とボードゲーム、アート系ではバイオリン、演劇、料理であった。これらは開始年齢が比較的高いものも多く、小学生以下の子どもが継続している習い事としては少数となりやすいと考えられる。13か月以上継続という要件の中では34種の習い事のうち16種が出現頻度1%未満であることを踏まえると、習い事レコメンドシステムのアルゴリズム開発にあたってはより大規模なデータ収集が必要といえる。

習い事の種類の多寡や子どもの個性との関連については、習い事の種類が多いことと比較的サンプルが少ない習い事があることも踏まえ、本研究では各カテゴリの代表的な習い事といえるスイミング、英会話、ピアノの間で比較を行った。その結果、印象については「静かな—賑やかな」というレッスン環境や、「寛容な—厳しい」という指導の厳しさ、また家での練習や保護者によるサポートの要否といった保護者負担に関する項目において習い事間で差がみられた。逆に「簡単な—難しい」、「じっくりやる—すらすらやる」、「すぐできる—なかなかできない」といった難易度や達成度に関する項目は習い事間で差が小さく（表3）、習い事を区別する項目には向かないことが示唆される。今後は、各印象の重要度もあわせて測定し、習い事間での差異の大きさと重要度の両側面から項目の絞り込みを行いたい。

子どもの個性については、三大習い事間での比較において、多重知能における「対人的知能」に差がみられた。性格特性においては「協調性」に差の傾向がみられたのみであったため、Big Fiveによる性格特性には差がなかったといえる。また、刺激遮蔽能力においては「動揺しやすさ」に群間で有意な差がみられた。これらの結果より、習い事の種類と子どもの多重知能、刺激遮蔽能力にはある程度の関連性があることが示唆される。性格特性については、成長による変化が大きい発達途上にある子どもが対象であることと、本研究では保護者による評価であったため、尺度選定も含めてより慎重な検討を要する。また、本研究の子どもに関するデータは、

本来の子どもの個性と、13か月以上習い事を継続したことによる個性の変化について区別していないため、今後、各習い事を継続している子どもに特徴的な個性があるかどうか、詳細な分析を進めていく。

本調査により子どもの習い事継続に関して子どもの性格・多重知能・刺激遮蔽能力を含めた多側面のデータが得られた。今回はその第一段階の分析として習い事の種類やカテゴリごとの代表値の整理、および代表的な習い事間での比較を行うことで、データの全体的傾向を把握した。習い事レコメンドシステムを構築する上では、利用者の利便性の観点から子どもの個性に関する質問項目も絞り込む必要がある。本結果に基づき、今後は子どもの性別や習い事の開始年齢、居住地域などの個人属性変数も考慮して、各習い事の継続と関連のある項目について更なる検討を続けたい。さらに、現在継続している習い事だけでなく、継続せず辞めた習い事に関する情報収集も必要と考えられる。

本調査は習い事を継続している子どもの保護者の観点からの情報であったが、今後は習い事教室のインストラクターや運営者を対象とした調査もあわせて行い、子どもが力を発揮できる習い事教室の環境調整に役立てたい。

謝 辞

本調査にご協力くださいました皆様、また丁寧なコメントをくださった査読者の先生に深謝申し上げます。

引用文献

- アクトインディ株式会社 (2020). いこーよ 2020年習い事調査 水泳が1位であり続ける理由 https://d2goguvysdoarq.cloudfront.net/system/press_releases/pdfs/491/original.pdf?1585120974 (2020年11月6日アクセス)
- 別府さおり・阿久根雅 (2018). 幼児の習い事に関する研究: 性差に着目した考察 東京成徳大学研究紀要(人文学部・応用心理学部), 25, 97-104.
- Gardner, H. (1983). *Frames of mind: The theory of multiple intelligences*. New York: Basic Books.
- 株式会社バンダイ (2019). バンダイこどもアンケートレポート Vol. 252「子どもの習い事に関する意識調査」結果

https://www.bandai.co.jp/kodomo/pdf/question
252.pdf (2020年11月6日アクセス)

Mehrabian A. (1977). Individual differences in stimulus screening and arousability. *Journal of Personality*, 45(2), 237-250.

中山南海子・栗原武志・森博文 (2005). 習いごとへ子どもを通わせる親の意識に関する研究 京都女子大学発達教育学部紀要, 1, 93-104.

野崎優樹・子安増生 (2016). 非専門家から見た多重知能理論内での情動コンピテンスの位置づけ 心理学研究, 86(6), 555-565.

野添絹子 (2011). 「得意なもの」チェックリストを用い

た事例研究—発達障害児の「興味」に基づく教育支援の検討— 早稲田大学大学院教育学研究科紀要別冊, 18(2), 215-226.

大石茉莉奈・米村俊一 (2019). 子どもの特性と地域性を考慮する習い事レコメンドシステム: 親が子どもに期待する将来像に基づく習い事選定方法の検討 信学技報, WIT2019-33, 7-12.

大谷華 (2011). スクリーナー特性と失敗傾向および注意配分に関する研究 人間・環境学会誌, 14(1), 51.

小塩真司・阿部晋吾・カトロニ ピノ (2012). 日本語版 Ten Item Personality Inventory (TIPI-J) 作成の試み パーソナリティ研究, 21(1), 40-52.

付録1 子どもの性格特性に関する質問項目: 日本語版 TIPI-J (小塩・阿部・カトロニ, 2012)

- 1, 活発で, 外向的だと思う
- 2, 他人に不満を持ち, もめごとを起こしやすいと思う (R)
- 3, しっかりしていて, 自分に厳しいと思う
- 4, 心配性で, うろたえやすいと思う
- 5, 新しいことが好きで, 変わった考えをもつと思う
- 6, ひかえめで, おとなしいと思う (R)
- 7, 人に気をつかう, やさしい人間だと思う
- 8, だらしなく, うっかりしていると思う (R)
- 9, 冷静で, 気分が安定していると思う (R)
- 10, 発想力に欠けた, 普通の人間だと思う (R)

外向性 (1, 6), 協調性 (2, 7), 勤勉性 (3, 8), 情緒不安定性 (4, 9), 開放性 (5, 10)
Rは逆転項目

付録2 子どもの多重知能に関する質問項目 (小学生): Gardner (1983), 野崎・子安 (2016), 野添 (2011)

- 1, その日にあったことを順序よく話す
- 2, 推理物の物語の犯人やトリックを考えるのが好き
- 3, 一度行ったことがある場所には迷わず行ける
- 4, 身体を動かして遊ぶのが好き
- 5, 好きだと思った曲の歌やメロディはすぐに覚える
- 6, 失敗した時に「次はこうすればいい」と考える
- 7, 友達の気持ちを考えようとする
- 8, 好きなことなら集中して何時間でもやる
- 9, 本を読むのが好き
- 10, 買い物に行った時に合計金額を自分で暗算する
- 11, 見たものや体験したことを絵に描くのが好き
- 12, 自分の手を使って工作するのが好き
- 13, 好きな曲が流れてくると, 自然に体や手でリズムをとってしまう
- 14, 自分の気持ちを相手に伝えることができる
- 15, 友達と意見がぶつかったときに適切に対応できる
- 16, 好きなことについて大人顔負けの知識がある

言語的知能 (1, 9), 論理数学的知能 (2, 10), 空間的知能 (3, 11), 身体運動的知能 (4, 12), 音楽的知能 (5, 13), 内省的知能 (6, 14), 対人的知能 (7, 15), 熱中性 (8, 16)

付録3 刺激遮蔽能力に関する質問項目: Mehrabian (1977), 大谷 (2011) を参考に作成

- 1, まわりの子どもに比べて, 良くも悪くも感情的にならないほうである (R)
 - 2, 一度にやらなくてはならないことがたくさんあると, 混乱してしまう
 - 3, 突然, 刺激のあるにおいがすると強く影響を受ける
 - 4, 家具の硬さや柔らかさに影響を受けにくい (R)
 - 5, 突然の大きな音があっても反応しない (R)
 - 6, 強い気持ちを抱いたときも, その影響が後を引くことはない (R)
 - 7, ときどき, 興奮して震えることがある
 - 8, いろいろなものが見えると気が散りやすくなる
 - 9, 気持ちが高まることはあまりない (R)
 - 10, 一度に多くのことが起きると強く動揺する
 - 11, 強い悪臭がすると緊張する
 - 12, 家具の布地や革素材が素肌に触れる感触に影響を受けにくい (R)
 - 13, 突然大きな音がすると, ひどく影響される
 - 14, 一日の始まりにひどく心動かされる出来事があると, 一日中の気分が左右される
 - 15, 気持ちが高まると心臓の鼓動が速くなり, しばらくそれが続く
 - 16, 多くの商品が陳列されている店内では落ち着きがなくなる
-

動揺しやすさ (1, 9), 同時多量刺激による動揺 (2, 10), 嗅覚刺激による動揺 (3, 11), 触覚刺激による動揺 (4, 12), 聴覚刺激による動揺 (5, 13), 気持ちの動揺の持続 (6, 14), 興奮による身体反応 (7, 15), 視覚刺激による動揺 (8, 16)
R は逆転項目

(きむら あやの 心理学科)

(いぬづか りょう 株式会社スクール)

(うら のぶまさ 株式会社スクール)

(わたなべ つよし 福祉社会学科)

(きむら あつし 日本大学危機管理学部危機管理学科)